

Heart of Tajimi
— たじみ市民討議会 2023 —

実施報告書



2024 年 3 月

たじみ市民討議会 実行委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 「たじみ市民討議会 2023」について	2
2-1. 概要	2
2-2. 協定書締結	2
2-3. 運営組織	2
2-4. 実行委員会	2
2-5. 活動実績	2
3. 討議会の実施について	3
3-1. テーマ選定について	3
3-2. 参加者について	4
3-3. 謝礼について	4
3-4. 討議の方法	4
3-5. 情報提供について	4
3-6. 話し合いのルール	5
4. 討議会の結果と市民からの提言	5
5. 『たじみ市民討議会 2023』の検証	8
6. 『たじみ市民討議会』の今後の取り組み	8
6-1. 参加者の減少	8
6-2. 今後の継続性について	8
6-3. 事後のフォロー	8
7. 協賛者ご挨拶	9
8. 終わりに	10
資料 1. 話し合いシート	11～23
資料 2. 参加者アンケート	24～25

1. はじめに

本報告書は「たじみ市民討議会実行委員会」が多治見市と協定を締結し、(一社)多治見青年会議所のご協力を得て実施した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会 2023ー」について、報告するものである。

2023年の「たじみ市民討議会」は7月23日に多治見市民24人の参加を得て実施された。

基本コンセプト『住みやすいまち たじみ』を掲げ、【子どもが笑っているためには】をゴールとして、

『子どもに多治見を好きになってもらうには？夢を持ってもらうには？』

『子どもが夢をかなえるためには何が必要か？』

『いろいろな問題を抱える今の子ども達。私達おとなは、何をしたらよいのか？』

『子どもの夢を応援する方法はありますか？私たちは、子どもと一緒に何を考えたらよいですか？』

この4つのテーマについて話し合いを行って頂いた。さらにその結果を検証し、集計・分析をして多治見市に対して提言を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり3年中止しての再開であった。コロナの影響もまだ残り安心して集まってもらうために、開催を一日のみとし、定員を少なくするなど今までとは違う形で開催した。



「たじみ市民討議会 2023」実行委員会

2. 「たじみ市民討議会 2023」について

2-1 概要

『たじみ市民討議会』はドイツで提唱された『プラーヌンクスツェレ』を参考に、2009年に（一社）多治見青年会議所が、「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会 2009ー」と題して、第1回『たじみ市民討議会』を企画立案し、以後2012年に市民による実行委員会を立ち上げ、本年に至る。

『たじみ市民討議会』は広く市民の「声なき声」を集約すべく18歳以上の多治見市民を対象に、住民基本台帳を基に無作為抽出された3,000人に対して参加依頼書を送付し、参加を受諾された市民により、年ごとに設定したテーマに沿って話し合いを行って頂く。そこで出た意見を集約・合意形成した結果を市政に提言を行う市民活動である。

2-2 協定書締結

『たじみ市民討議会』を実施するにあたり、実行委員会と多治見市との間で『協定書』を締結した。協定の内容は、①実施の目的、②相互の協働の精神に基づく原則、③役割と責務などを明確にし、確認するものである。



協定書締結式の様子

2-3 運営組織

実行委員会は市民委員10人で次のように組織した。

- ・実行委員会委員長（1人）、副委員長（2人）、顧問（1人）で運営し、会を代表する。
- ・運営にあたって必要に応じて運営委員（若干名）を招集して運営方法を協議した。
- ・協力として（一社）多治見青年会議所、オブザーバーとして多治見市企画部秘書広報課の職員にも参加して頂いた。

2-4 実行委員会

実行委員会は、都度議事テーマを決め、1～2回／月の頻度で開催した。

活動の記録は、次項2-5『活動実績』に記す。

2-5 活動実績

2022年6月 2023年の開催の決定意向を多治見市に伝える。

2022年9月 今後の予定を委員会で確認。

新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく開催が中止になっており、委員会の時期や方法など前回とは全く違う時期になっている。委員長などの役員は内容を理解している水

野智恵子に任命する。委員会の開催も ZOOM や LINE などを利用し、直接会っての委員会は 2023 年の 3 月以降となる。

第 1 回 顔合わせ

第 2 回 活動方針について

第 3 回 討議テーマについて（3 月）

第 4 回 討議小テーマ 4 つの決定（4 月）

第 5 回 討議方法の再決定（5 月）

第 6 回 案内状封筒詰め作業

『協定書』調印（5 月 22 日）

第 7 回 情報提供について（情報提供者の選定）

第 8 回 情報提供について（情報提供の内容の検討）

第 9 回 情報提供について（情報提供の内容の修正）

会場設営（7 月 22 日）

『たじみ市民討議会』開催（7 月 23 日）

第 10 回 提言書の策定

第 11 回 提言書の策定

第 12 回 提言書の策定

第 13 回 提言書の策定・議決

『中間報告会』（9 月 28 日）

『提言書』提出（10 月 6 日）

3. 討議会の実施について

『たじみ市民討議会』は以下の要領で実施した。

討議会は 4 人の単位で 6 グループを作り、4 テーマについて参加者同士で意見交換をする。
また、2 テーマが終わったらメンバーの入れ替えを行う。

3-1 テーマ選定について

テーマ選定にあたっては、市民の共通の関心事で市政との協働が可能なものとすることを意識して議論を重ねた。また、市民としてやるべきこと、できる事が明確にイメージでき、市政に対しては具体的な提言ができる事を念頭に置いている。

市民討議会は、コンセプトとして『住みやすいまち たじみ』と大きなテーマを掲げている。

2023 年のテーマを決める時に、楽しく明るく討議ができる内容、みんなが考えられる内容、市と協力できる内容ということから「子どもの夢」に焦点を当てた討議テーマを選定した。

【大テーマ】 住みやすいまち たじみ

【中テーマ】 子どもが笑っているたじみのために

【討議テーマ】

① 子どもに多治見を好きになってもらうには？夢を持ってもらうには？

② 子どもが夢をかなえるためには何が必要か？

③ いろいろな問題を抱える今の子ども達。私達おとなは、何をしたらよいのか？

- ④ 子どもの夢を応援する方法は何がありますか？私たちは、子どもと一緒に何を考えたらいよいですか？

3-2 参加者について

参加者は多治見市で管理される『住民基本台帳』から 18 歳以上の市民を無作為に抽出して 3,000 人に『参加依頼書』を郵送した。今回より、返答を今までの郵送に加えて、インターネットでの回答可能とした。65 人から参加の回答を得た。当日の欠席も考え 35 人に決定通知を返送した。当日の参加者は 24 人であった。

3-3 謝礼について

参加者に対しては、全ての討議に参加を条件に 4,000 円の『謝礼』をした。単に『謝礼』と言うだけでなく、各自の発言には責任を持って頂くという意味合いがあり事前説明で確認をした。

3-4 討議の方法

討議は次のように行った。

[グループ討議]

話し合いは、実行委員が補助係（1 人／グループ）としてサポート。進行係は参加者が行い自由な話し合いを行った。それぞれの意見は付箋に記載して、準備した模造紙に貼り付けた。

[まとめ]

話し合いの結果は「まとめ 1」「まとめ 2」「まとめ 3」として模造紙に記入して合意形成をする。「残したい意見」があれば併記する。

[発表]

まとめた意見の内容をグループごとに発表を行う。全てのグループの模造紙を一覧として張り出す。

[投票]

各グループでまとめた全グループの意見は、参加者全員が各々賛同する「まとめ」、「残したい意見」に投票する。

3-5 情報提供について

グループ討議に先立ち専門家、先進活動グループなどによる『情報提供』を行う。

討議テーマ①と②に対して、『多治見市の子どもの現状』を知ってもらうために、多治見市教育委員会教育推進課の東山様に説明をしていただく。子どもの人口などの数字以外に、夢があるのか？挑戦していることはあるか？気持ちについても説明をしていただけたことは、市民討議会のゴールに向けての情報提供として合致していた。

討議テーマ③は、問題を抱える子どもについて『子ども食堂の現状と課題』というテーマできらめきベースみちくさの安川様・大塚に説明していただいた。

問題を抱えるとはどんなことなのか？対象の子どもと接していて感じることなど今、目の

前にある課題を話していただけたので参加者はとても興味を持てたようであった。

討議テーマ④は、水野委員長が説明をした。自分の職場である介護施設での子連れ出勤、子どもの成長についてなどを説明し、今、私たちが何をしたらよいのか？を投げかけ市民討議会のまとめとした。

3 - 6 話し合いのルール

話し合いのルールとして、次のことを確認し合った。

- ・参加者は親しみを込めて「さんづけ」で呼び合う
- ・全員が発言する（発言できるよう配慮する）
- ・他の意見を全否定しない
- ・テーマについて結論を出す
- ・自由に意見を出す
- ・アイデアの実施、実行の可否にこだわらない
- ・他の意見を参考にしても良い

4. 討議会の結果と市民からの提言

討議会の結果は、模造紙に記載された「まとめ」意見を基に精査し、投票の多寡を考慮して『提言書(案)』を策定。中間報告会で参加市民の承認を得て『提言書』として次のように作成し、2023年10月6日に高木多治見市長に手渡した。

当日参加された市民の方も参加された。



提言書提出式の様子

提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2023ー」に関する提言書

令和 5 年 7 月 23 日に開催されました「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2023 ー」に於いて討議された意見を以下のとおり提言いたします。

大テーマ『住みやすいまち たじみ』

中テーマ『子どもが笑っているたじみのために』

討議テーマ 1

子どもに多治見を好きになってもらうには？夢を持ってもらうには？

討議テーマ 2

子どもが夢をかなえるためには何が必要か？

討議テーマ 3

いろいろな問題を抱える今の子ども達。私達おとなは、何をしたらよいのか？

討議テーマ 4

子どもの夢を応援する方法はありますか？

私達は、子どもと一緒に何を考えたらよいですか？

子どもが夢を叶えるためには、

- ・おとなが、今の子どもを理解すること
- ・子どもが多くのおとなと交流をし、選択肢を広げること

が必要です。そのために、次に掲げる 4 つを提言いたします。

①子どもが多治見を好きになれるように、多治見出身で活躍している大人と交流できる機会や多治見の名物を知ることができる環境作りを望みます。

多治見なら夢が叶う！

学校生活の記憶は
今でも覚えている

たじみのいい所主張大会

②低学年の頃から職業体験の場を増やし、子どもだけではなく大人も共に知る事で話し合いや応援ができる環境を望みます。

夢は仕事だけじゃない！

おとなも知れば
応援できる！

子供が進路を
相談しやすい環境

③第三者として、地域の見守りや問題を発見するために、問題を抱える子どもはもちろん、子どもの今の環境の状況を知る機会や、どう対応したらよいか学べる機会を望みます。

おとなが悪口を言わな
い！

助けたい！

心理的安全性
話を聞いてくれる

④夢や生き方を語り合える場を望みます。

おとなの失敗主張大会

多様性を知って受け入れ
る

子供が安心して活動できる
金銭的支援

※付箋は、参加市民の意見を一部抜粋したものです。

これら多くの付箋意見をまとめたものが、今年の提言です。

令和5年10月6日
たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 水野 智恵子

5. 『たじみ市民討議会 2023』の検証

～たじみ市民討議会の有用性～

今年度のテーマは「子どもが笑っているたじみのために」であったが、当初参加申し込みが65人と市民の関心の高さが窺える。また、世代別参加者割合が今までと比べると若い世代が多く、新型コロナウイルス感染症の前と後では市政への興味が増えたと実感している。また、意見をみると、市へのお願いではなく、自分たちが何をするのかという意見が多く、行動意識の変化も大いに感じる事ができた。

市が主催する討論などの集まりに参加したことがない市民が87.5%も参加していることから、サイレント・マジョリティの意見を取り上げることができていると思われる。また参加者アンケートから、今回参加したことにより、多治見市の課題や取り組みを初めて認識した、との声も聞かれ、市民討議会の開催意義はあったと思われる。

6. 『たじみ市民討議会』の今後の取り組み

6-1 参加者の数

今年度の参加者は、参加希望数が大幅に増加し定員を30人から35人に増やした。しかし、当日の参加者は24人であった。今までの経験から、当日の欠席は想定していたが、これだけの欠席が出てしまうと運営に影響を及ぼす恐れもある。当日の参加者数の予想、当日の動きなどを課題とする。

また、行政に市民の『声』として『提言』を行う討議会としては無作為抽出による参加者は、約7万人の対象者の0.05%（35人）以上の参加が望ましく、実行委員会としてSNSや広報紙、ラジオなどの媒体を最大限活用し、行政と協力してPRに注力したい。

6-2 今後の継続性について

現在、実行委員会は10人で運営されているが、ボランティアであるため入退会は任意である。この活動を継承し継続していくため、今年は参加者にハガキにて入会の通知を行った。

今後も、引き続きスタッフを募集していく。

6-3 事後のフォロー

参加者に対しては『中間報告会』を設けて、『提言書（案）』を提示し、承認を得て『提言書』としている。また、多治見市のホームページには逐次『提言』の内容と『提言』に対する市政の取り組みを開示して頂いている。より多くの参加者にモチベーションを維持して頂けるよう、事後フォローについて検討する。

7. 協賛者ご挨拶

我々多治見青年会議所は、1955年の創立から現在まで68年間、まちづくりや青少年育成、地域活性化など多治見市に根ざす団体として多治見市をより良いまちにすべく運動を展開しております。「地方分権」という言葉が用いられるようになり久しいですが、基礎自治体である市に、実際に住み暮らす私たち市民が真に必要としていることを生の声として行政に届けることは、一市民としても、また「明るい豊かな社会の実現」を目指す団体としても大変重要なことであると感じております。

現在、様々な自治体が、公聴会や懇談会、パブリックコメントや市民アンケートなど市民の声を聴くための取り組みを行っています。しかしながら、これらは市政に関心の高い方々が参加者の大半を占めることが多く、例えば考えがあっても声の上げ方が分からない方、これからのまちを担う若者、本当は様々な支援を必要としている子育て世代の方といったいわゆるサイレント・マジョリティや、市政が何を行っているのかそもそも知ろうとせず、知る必要もないと考えているような無関心層、そういった市民の声を拾い上げきれないのも事実です。この市民討議会の大きな特徴は、地域や年齢、職業等に関係なく、無作為に選ばれた市民の皆さまが、率直に感じていることや考えていることをじっくりと討議し、集約した意見を最終的には提言書として取りまとめ、多治見市長に直接届けることができる、という部分にあります。市民の実際の声を市長に届けることで、自分たちがまちづくりや市政に参画していることを実感できるとても貴重な機会であると思います。

2009年、私たち多治見青年会議所が「市民のまちづくりへの参画意識を高めたい」という思いで始めたこの市民討議会ですが、2012年からは市民の皆さまが実行委員会を組織し、討議テーマの選定や当日の運営、最終的な提言書の提出まで、まさに市民主導で実施され、我々多治見青年会議所と多治見市が協力するという体制でこれまで続いております。10年以上続けてきたこの市民討議会ですが、新型コロナウイルス感染症による社会的な混乱により、2020年から2022年までは開催が叶いませんでした。全国的にはコロナ禍の期間の中止を経て、そのまま立ち消えとなってしまうイベントや行事が多いなか、実行委員会の皆さまの思いにより2023年、これまでと同じように市民討議会が再び開催できたことに敬意と感謝を申し上げます。

不透明な社会情勢や、価値観の多様化、ニーズの細分化など、時代の流れによる変化が急速に進んでいる現代において、現在進行形でこのまちに住み暮らす市民の声が市政へ届くことは不可欠であり、市民の積極的な市政への参加により、行政と市民の協働によるまちづくりが行われ、この多治見が私たちにとって「住みよいまち」になることを願っています。

むすびに、この「たじみ市民討議会」の開催にあたり多大なご尽力をなされた実行委員会の皆さま、多治見市の行政関係者の皆さま、そして市民主導のまちづくりのために市民討議会に参加された皆さまに深く感謝申し上げます。

一般社団法人 多治見青年会議所
理事長 加藤賀裕

8. 終わりに

たじみ市民討議会の意義をこれだけ感じた年はありませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響で 2020 年度から 2022 年度は開催を見送りました。今年度も人数を制限したり、日程を変更したり、不安の中での開催でした。

無作為抽出でサイレント・マジョリティの人たちの意見を聴くとは言っても、文句や市へのお願いが多いのではないのか。それを防ぎ前向きに考えてもらうためにはどうしたらいいのかと委員会を開いては何度も案を練りました。

そして、当日を終えてみれば、とても前向きで明るい意見が多く、市へのお願いではなく、私たちが何をしたら良いのか？市と一緒に何ができるのか？などテーマを自分の事のように考えた意見がすごく多く驚きました。

これは、参加者の平均年齢が若いこと、コロナ禍の中、自分で判断することが増えたこと、久しぶりの開催であったことなど、様々な要因があると思います。そして市民討議会の中で、リアルに市民の考えがとても進歩的になっていることを実感しました。

今年のテーマは、“子どもの夢を叶えるために何ができるか”でした。昨今、貧困、介護、空き家、虐待、防災、たくさんの社会問題があふれています。そんななか、問題を解決するために市民に考えてもらうことはとても重要なことです。今回のテーマを決める時に考えた目的の1つに、“楽しく笑顔で考えられること”を入れました。初めて会う人たち、市役所からの封筒、コロナ禍明けのストレス開放など緊張する中で少しでも市民の方に意見を言ってもらいたい。そんな思いで“子どもが笑顔でいられるために、子どもの夢を叶えるために！”なら誰もが楽しいかもしれないとテーマを決めました。

子どもを持たない方でも、誰もが昔は子どもでした。また、多治見市も今年は子どもについての政策をたくさん伝えていました。それがタイミングよく合ったということもあり、参加予定数 30 席に対して倍以上の応募がありました。これだけ関心を持ってもらえただけで感謝です。

また、参加された方々が市民討議会に参加したことによって、多治見の事を考えるようになった、意見を言ってもいいのだと知ったなど、考えて行動する市民に変化していく様子もとても嬉しかったです。

私は、2009 年より委員会に参加して、テーマの内容より、市民 1 人 1 人が考えていったら問題解決のスピードは速くなるだろう、一緒に考えてもらうことが大事だと思って活動をしてきました。お願いが多くなってしまったり、意味のない会だと言われたり、委員会の中でも意見が対立したこともありました。それでも続けてきたことで、今年は大きな結果をもらえた素晴らしい市民討議会になりました。

また、最後まで一緒に頑張ってくれた仲間がいてくれたおかげです。特に、最初の年から一緒に続けてきた顧問の竹本さんには感謝しかありません。

多治見市役所さん、多治見青年会議所さん、そして参加してくださった市民の皆さん。みなさんの力があってこそ今年の成功につながりました。本当にありがとうございました。

たじみ市民討議会 2023 実行委員長
水野智恵子

資料1. 話し合いシート

参加者を4人の単位で6グループを編成して、4つの討議テーマについて付箋に意見を書き出して頂き、グループの意見を「まとめ」として発表して頂いた。良いと思う意見に投票し、多い順に記している。()の数字は投票数)

討議テーマ1.

子どもに多治見を好きになってもらうには？夢を持ってもらうには？

Aグループのまとめ意見

1. 夢を実現するための金銭的サポート (9)
2. ヒーローを作って知ってもらう！(5)
3. 多様な職業の存在を知ってもらうための場 (2)

残したい意見

- ・空飛ぶ車
- ・うながっぱ
- ・交通整備
- ・困りごとを伝える場

Bグループのまとめ意見

1. 多治見市内の中心部と、中心部以外の交通の便の格差が大きい (8)
2. 子供が安心して遊べる場所
テーマパーク等がもっとあると良い (5)
3. 職業体験などを通して親も子も理解できる
多治見市のPRがもっとできると良い (3)

Cグループのまとめ意見

1. 様々な体験をする！！ (4)
2. 多治見の良さを再発見！！ (4)
3. 夢の選択肢を増やすために視野を広げる情報を収集 (1)

残したい意見

- ・価値観の多様化を受け入れる環境 (6)

Dグループのまとめ意見

1. 多治見を調べる事から始める
別の地域の人と交流をして、多治見ならではの知る (7)
2. コミュニケーション能力の強化！！
学校でどんどん失敗しよう (5)
3. 色んなコミュニティーを持つ
自分でできる事・良い所・好きな事を見つける (個性) (3)

残したい意見

- ・多治見市のいい所主張大会！ (5)



Eグループのまとめ意見

1. 街の中に子供が安全で楽しく遊べる施設を増やす(3)
2. 家の中ではなく、外へ出たくなるようなクリーンな街にする (1)
3. 地域の人とコミュニケーションが取れる場を作る (1)

残したい意見

- ・全国に誇れる名物がある→SNS等を使ってPRする (8)

Fグループのまとめ意見

1. 子どもが安心・安全に楽しめる屋内大型遊具施設を作る (企業協賛) (10)
2. 子どもが自分で考えて選択できるように学校ごとに特色を持たせる (学校区の廃止) (7)
3. 子育て支援・イベント情報を入手しやすくする (SNSの活用) (2)

残したい意見

- ・大人が好きになれる多治見 (子どもの前で大人が多治見の悪口を言わない) (15)

Aグループで出た意見 (付箋)

多治見が好きだと発信してもらう

ヒーローを作る

有名な人たちのPR

子どもたちの個性に気づく
 他の県から多治見の良さをきく
 発表できる場を増やしたい
 夢に対する投資を受け付けてほしい
 「こんな有名人がいるんだ」をもっと発信
 うながっぱをもっと活用する
 小さいころから多治見の特色をいろいろ教える
 一番を作る
 親が多治見を好きになる
 SNSを活用して発表
 SNSをうまく使って
 SNSの活用
 多治見のヒーロー『くまのがっこう』のあだちな
 みさんとか、ボクシングの田中恒成さん
 第三者の関りがもっとできるように
 職業体験
 気づきの場所の提供（どんな職業があるのか、子
 だけでなく親にも知ってもらおう）
 自信を持って好きと言ってもらえるまちにする
 自分が大人が多治見を好きになる
 うながっぱバスなど、ゆるキャラ／うながっぱを
 もっとPRする
 先生たちの増員／子どもたちをサポートする大人
 の増員
 自分の個性を発表できる場がある
 他県の人から多治見を好きだと言われる
 目標を持ってもらえる
 良いところ悪いところを言い合える場がある
 いろいろな仕事を見て、働き方や職を知る機会を
 作る
 多くの職業体験をする
 学校以外でも子どもの能力を伸ばせる場があつた
 らいい
 地域のお年寄り／近所のママ友／市役所との連携
 ／子どもたちを別目線で見る
 個性が伸ばせる場
 勉強以外の事が伸ばせる場
 困り事・意見が市に伝えやすくなると良い
 子どもが夢をかなえるためのお金
 家賃を下げる
 奨学金
 権利を持っている人たちに意見が伝えやすい環境
 学校で働く人たちの時給を上げる
 歩道を広くするとよい
 空飛ぶ車を日本で初めて導入する
 車が無くて困らないように
 うながっぱバス／面白いものを知ってもらおう

車優先の街になっている
 歩道の確保

B グループで出た意見（付箋）

- ・テーマパークがない
- ・コミュニケーションの場所が少ない
- ・遊び場があった
- ・広場もあった（今はない？）
- ・室内で子供が遊べる所がない
- ・小学生だけで名古屋まで出るのが危ない
- ・プロのスポーツ選手と身近に関われた（バスケットボール／岐阜セイリウヒーローズ？）
- ・バスなどの公共交通機関が少なかったため、家にいるか、公民館、児童館しか行くところがなかった。
- ・プラネタリウムや映画館があると夏も涼めたり、親子の会話が増えると思います
- ・映画館がない／子供を連れて名古屋に出るのが大変
- ・「多治見市」をPRしてほしい
- ・営業力がない
- ・企業を誘致して「税金」を多治見市に？
- ・榊丸モ高木陶器会社の花が咲くグラスが有名
- ・多治見市外に遊びに行くことが多い
- ・遊べる施設がない
- ・市役所にいろんな展示がある事を知ってほしい
- ・近くに公園がなかった
- ・学童で月に1回くらい農家の方のところで田んぼや畑で作業したり、そこでとれたものを食べた
- ・市民プールがあったほうがいい
- ・ザリガニつりをしていた
- ・魚と触れ合う場所が無い
- ・休日でも学校であそんでいた
- ・外で遊ぶ／公園とか田んぼ
- ・移動／自転車
- ・国会議員の先生にお願いする
- ・車の数も少なく、道路で遊んでいた（昭和40年代）
- ・先生との距離感がある時は学生時代、学校へ行くのが楽しい時と楽しくない時があった
- ・入学式や卒業式で同じ町内の陶芸家さんの花瓶を使っていた／身近に感じれてよかった
- ・友達と遊ぶときは3DSであそんでいた
- ・カラオケくらいしか行くところがない
- ・多治見市の有名所の謎ときやカードゲームが当たったら良い
- ・お店が集まっている19号沿いは車が多く危な

いが、そこ以外に行くところがなかった

- ・年代によって交流が違う
- ・多治見市の街中央と離れた町では待遇が違う
- ・自分たちの時代にあった多治見の伝統を今の子達に伝えるきっかけが少ない

- ・同じ年の友達がいた
- ・コミュニケーションが少なくなった／花火／盆踊り

- ・土岐川で夏にリバーぴあという川で遊ぶイベントがあつて楽しかった

- ・おにごっこ／いじめもなかった
- ・七竈社のようなアクセサリ／ただ高くて子供が買えない

- ・陶器を作る体験をたくさんしたのが楽しかった
- ・学生時代にアニメと多治見を繋ぐきっかけに触れる機会があつたのでそのイベントがあると良い

- ・コンビニやファミレスが町内になく行く場所が無かった

- ・アニメや芸術系とのコラボがあつたらよい
- ・休み時間に学校の隣の森で遊べたのが楽しかった

- ・人数が少なく、一度仲間外れにされると学校に行きにくい感じがあつた

- ・多治見のカフェ・グルメ紹介が少ない
- ・職業体験がない

- ・市民プールに行っていた
- ・多治見市に住んでいる生き物をもっと子供に知ってもらふ機会があると良い

- ・校長先生が昔の土器などを集めて学校に展示していてそれを見るのが好きだった

- ・同じ学校ではなく、他の学校の子と交流するのが好きだった

- ・小学校の時にクラスでアゲハチョウを幼虫から育てたのが楽しかった

C グループで出た意見（付箋）

- ・夢の選択肢が少ない、知らない
- ・チャンス
- ・子供の頃、外で遊ぶ、自然の豊かさ→生物を育てる

- ・いろんな仕事をしてみたい
- ・育てることの楽しさ
- ・いろいろ興味、好奇心、知ること楽しい
- ・夢が漠然としていて…どういふものを抱いたらよいか…

- ・映画ドラマ影響
- ・読書／歴史→現地人

- ・職業体験

- ・多治見よさ再発見

- ・のんびりゆったり

- ・多治見にずっといるのは…外の世界をみてみたい

- ・学校教育価値観変化

- ・有資格→目標

D グループで出た意見（付箋）

- ・ほめあう

- ・大人になるとわかることが多い

- ・ボランティアに参加して地域と交流する

- ・自分の市の良い所主張大会

- ・外から見るきっかけが必要

- ・多治見を調べる

- ・多治見の良さを見つけるには?→別の地域の子供と交流する

- ・別の地域と交流するには?→web 会議で機会増やす

- ・多治見ならではの陶器づくり子供たち

- ・空気がおいしい多治見は

- ・個性を見つける／見つけてあげる

- ・自分のできることをやり遂げる

- ・夢を持ってもらふには?→きっかけがあればいい、不登校減らせれば十分かも

- ・それぞれのいい所を見つける

- ・失敗してもいい雰囲気を作る

- ・好きな事を見つける

- ・色んなコミュニティーを持つ

- ・周りに個性を認めてもらう

- ・不登校のケアについて→コロナの影響でコミュニケーション不足

- 能動的にコミュニケーションできない子供をフォローする

- ・不登校の原因 子供の中のコミュニケーションはある?

- ・Web で対県、対国と交流する

- ・失敗のケア→失敗の逃げ場を作る

- ・学校は失敗する所

- ・コロナのコミュニケーションのとり方の変わり方でコミュニケーションの取り方が分からない子供がいる

- ・子供のコミュニケーション

E グループで出た意見（付箋）

- ・子供が楽しく遊べる場所がある（お金がかからない）

- ・ 娯楽施設（市外しかない）
- ・ 遊べる施設を増やす（子供が安全で楽しく遊べる施設）
- ・ 学校や家庭で学べない様々な経験ができる場がある
- ・ 老人と子供 野球・バスケットなど交流
- ・ 日常の挨拶・コミュニケーションを高める
- ・ キレイな街のイメージがないから、もっとクリーンな街にしてほしいと思う
- ・ 地域ぐるみで付き合い、親しく話ができる大人がいる（風呂場・社交場）
- ・ 遊んでいる大人がいる
- ・ 歩道をきれいに！
- ・ 学校から遠い
- ・ 友達と遊ぶ時間がない
- ・ スクールバスがあるといい
- ・ 自然を活かしたアスレチック
- ・ 自由なスペースがない
- ・ 自分の好きな事が十分できる時間や場所がある
- ・ 身近に夢を語ってくれる大人がいる
- ・ 市民の中に尊敬できる大人がいる
- ・ 全国に誇れる名物がある
- ・ 嫁不足（寿シティー）

F グループで出た意見（付箋）

- ・ 嬉しい楽しい場所「屋内大型遊具施設」
- ・ 探求心好奇心が湧く学べる場所
- ・ 企業と協力して屋内公園を作る→日本一暑い
- ・ 住みやすい／安全楽しい場所・環境／公園・施設・駐車場・周囲の大人
- ・ 大規模施設を作る（大学）
- ・ ステイタスとなるものがあると良い
- ・ 遊ぶ場が減→公園を作る、直す
- ・ あつくならないすべり台
- ・ 企業を呼ぶ
- ・ 学校区廃止
- ・ 大人が好きになれと夢を持てと強要する
- ・ 学ぶ選択肢多→教育に力を入れる→学校ごとに特色を
- ・ 子どもに行きたい学校を選んでもらえる
- ・ 子どもが自分で考えて選べる→自発的な行動・考え方ができる
- ・ 悪いイメージの払拭
- ・ 多治見を好きになってもらう→過ごしやすさ、ストレスがない
- 小学生：友人関係、周囲の大人
- 中学生：将来について、職業体験をもっと多く

- ・ 大人も好きな多治見
- ・ 夢を持つ→将来へのビジョンの明確化
- ・ 実際の仕事⇒自分が好きな事を見つけられる
- ・ 大人も子供も一緒に楽しめる公園
- ・ 情報配信の一本化
- ・ 子育て支援政策が優秀→PRに力を入れる、SNSで発信

討議テーマ 2.

子どもが夢をかなえるためには何が必要か？

A グループのまとめ意見

1. 夢を実現した人の体験を知る（10）
 2. ライフステージに合わせたサポートをするシステムを増やす（場所とお金）（9）
 3. 多様性を認める、伸ばす教育環境を作る（1）
- 残したい意見
- ・ 若者が住みやすい街にして、税収を上げて、サポートを強化する（3）
 - ・ 勉強以外の能力が伸ばせる場を増やす（1）

B グループのまとめ意見

1. 「体験」「経験」が必要である
職業体験が必要（企業の受け入れ努力が必要）
理解も必要です（7）
2. 「親と子供、地域」とのコミュニケーションが不足している
コミュニケーションがないので、“夢”を話せる場所・集まるところが少ない
メリット・デメリットを話せば良いですが...（3）
3. 「パソコン・AI」など、機器を使った体験も必要です（シミュレーション）
本を読む・イメージを膨らませることも必要ですが（2）

残したい意見

- ・ 親の理解（3）
- ・ 仕事内容のメリット・デメリットを聞きたい（2）
- ・ 子供とのコミュニケーションの時間が取れなくなることがある（物価が高いので、働く時間（親）が多くなるからです）（1）

C グループのまとめ意見

1. 否定ではなく応援してあげられる周囲の理解や支援（14）
2. 将来への希望・憧れ・欲望を持つこと（3）

3. 計画性と行動力（1）

残したい意見

- ・合理的に考えてしまう子ども達の審理を改善していく（4）

Dグループのまとめ意見

1. 自分の好きを追求！
自分の将来をイメージする（4）
2. 夢を追い求める過程を惜しまない（3）
3. 夢を追い求める環境
I C T・人脈（3）

Eグループのまとめ意見

1. 様々な面で環境を整える（親・地域の支え・時間・お金…等）（7）
 2. 小学生→様々な職種を知ってもらう
中学生→いろいろ経験させる（4）
 3. 大人の体験談を伝える（成功&失敗）（2）
- 残したい意見
- ・夢を大切にしてほしい（1）

Fグループのまとめ意見

1. 心と環境の支援（学費支援・子ども食堂・進路カウンセリング）（1 2）
 2. 情報の支援（職業体験・進路相談・選択肢増）（5）
 3. 本人の意思（諦めない心・夢）（4）
- 残したい意見
- ・親子・頼れる大人で進路について話し合う（2）

Aグループで出た意見（付箋）

学校以外で子どもが能力を出せる場
学習できる場を身近に開放する
勉強以外の能力をサポートする場
親だけでない大人のサポート（先生・地域の人・市の人）
熱い思いを持ち続けることができるサポート
多様性を認める社会づくり
同性婚を認める
目指す目標に対する想いを評価するシステム
多治見に大学を作る
多治見に大学を作る
多治見に若者を呼ぶ
学力格差をなくす
税収を増やす
金銭的サポート（奨学金・ひとり親家庭・障がい

者）

多治見市内での地域格差をなくす
結婚・育児へのサポート
夢を叶えた人の話を聞く機会
イチロー選手を呼ぶ
イチローを呼ぶ
夢を叶えた人を学校に呼んで話を聞く機会
子どもの命を守るために歩道を広くする
子どもの命を守るために歩道を広くする
住みやすい、住みたいと思える街に
勉強をする場所（まなびパーク）の他にほしい、
あると良い
公民館の開放（勉強するために）
勉強する場所が欲しい

Bグループで出た意見（付箋）

コミュニケーションの場が少ないので、夢を語れる場がない
学校以外の場所で話す場所が無いから夢を語り合えない
夢がない子供がいる
スマホやタブレットを使用し、職業について知れる機会や体験ができると良い
仕事内容のメリット・デメリットがあるから
職業体験
職業体験～受け入れる企業の理解が必要
職業体験場を増やした方が良い
学校だけでなく市から企業への体験をした方が良い
子どもが夢を持ちたいと思える環境
シミュレーション、ゲーム感じでやれるといい
工業高校や農業高校の見学
親の理解
子供の話を聞いてあげたり、見てあげられる場所
仕事で必要な勉強を理解する子供と親
子供同士の否定
子供と親が同じ時間を同じ目線で過ごせる場所があると良い
親の時間がない
仕事で子供とのコミュニケーションが少ない
英語などもっと実践的な授業の導入
詳しい職業内容が分からない
他校の人と関わる機会を設け、様々な人と交流できるようにする
卒業生による講演
長期休みでのボランティア体験

Cグループで出た意見（付箋）

大人の共通認識（子育ての上での）
行動力
スモールステップと計画性
趣味で〇〇をしたいという気持ち
仕事と別に夢を持ってもよいのではないか
環境や年齢によっても「夢」の種が異なる
やりたい！と言える環境
自己肯定感を高める
周囲の理解
その価値を高める
話しても否定されない夢
仕事はなりたい自分になる手段
誰かに相談をすることができる
チャレンジする勢い、手を挙げる
親が子の夢をサポートする事
親に夢を言えない事も
一つ一つが浅い思考・深い理解志向の必要性
希望
仕事は生活の為で夢とは違う
欲がない若者
仕事以外の夢はあるか
明るい未来が欲しい
あこがれを持つ
「夢」を持っても良いという意識
好きな気持ちを大事にする
条件なしでやりたいことは何か
効率よくしたい、〇〇しながら...
主体的な夢を持っていない
合理的に考えすぎる若者たち
子供の物欲が低下
早急に結果や答えを求めすぎない
仕事＝夢？
子どもの「夢」は大人が考えるものとは違っている
物価の上昇、値上がり・生活苦
お金・金銭的な余裕
昔とは異なるお金の使い途
リーダーシップをとって起業する人もいる
誰かの夢にのっかっていきたい人
日本経済が衰退している危機

Dグループで出た意見（付箋）

自信をつける
夢を増やす→いろいろな興味を持つ
夢を一つだけではない→一つ挫折してもリスタート

夢を持ち続ける
リスタートする力
自分の夢を調べる
人と関わる
人脈
夢を具体化する→必要なスキルなど整理？
ICTを活用
電子化の発展
家庭環境
私生活に楽しみがありすぎて仕事に夢を持つことができない
生きがい
楽しく生きていくには何が必要か？
夢を増やす手段（手段？）→いろんな人とコミュニケーションを増やす
経済的な支援→今は教育の場で資産形成とかも教えてる
キャリア形成→目標を少しずつ残していく→それを電子で残せば見返しやすくなる
自分の家庭が分かるような教育をしている
キャリア教育（1～6年生まで）
論理的に考える
自力する力を小学校から育てている
自分の好きな事を知る
自分を信じられる
いい所をたくさん持つ
好きを追求

Eグループで出た意見（付箋）

小学生くらいからパイロット・公務員・医師他ハローワーク並になりたい仕事の応援でプログラム・テキスト配布
小学校くらいから日本国内・業種別社長（トヨタ・日立）の講演に頼む
したいことを体験できる時間を作る
勉強の大切さを伝える、後々選択肢が広がる
夢に向かって何をすれば、叶えられるか道筋を知る
人の話を聞く
様々な職に触れる場を作る
様々な選択肢を与える→自分がやりたいことを見つけたヒントが得られる
実際に働いている方に話を聞くのが一番良い
まずは何でもやらせてみる
その夢を叶えることで生活が安定する
夢を語り合える友達がいる
相談できる場を作る

夢について相談できる大人がいる
好きな事が明確にある
環境を整える→勉強ができる場所、スポーツができる場所（屋内外で）
交通の便をよくする→習い事に通いやすい
親の応援
家庭や学校で経験できない事を経験できる場がある
やりたいことを打ち込める時間やお金がある
地域で応援する（情報誌に掲載とか？試合の応援（中体連とか）定期演奏会への招待）

F グループで出た意見（付箋）

選択肢を与える
職業体験（すべての仕事）
行政と企業が協力して、職業体験イベントを行う
メリット・デメリットを見せる（職業体験）
現実的に考えるために必要な事を知る EX）資格・教育機関
夢：具体的に考える、支援、プロセスを学べるような機会を設ける
具体的にどうしたらいいか（進路）
キャリアタイム
進路相談（小学生のうちから）中学から高校からでは遅い
親に（大人）自分の想いを伝える心
選択肢があるように、進路についての相談・相談しやすい環境（家族・友人・それ以外にもできる）
言っても否定されない
「今」の生活を満たす→未来に目を向けられる→夢を見つけ、叶えるための行動につながる
豊かな心（経験・体験）
フードスタンプ・子ども食堂拡充
カウンセリング（自信をつけるための）
親の応援
親の考え・話し合い
学費無料
お金・補助金
環境・夢に応じた道具、施設
本人の意思
あきらめない心
子どもが好きなものを見つける→夢

討議テーマ 3.

いろいろな問題を抱える今の子ども達。私達おとなは、何をしたらよいのか？

A グループのまとめ意見

1. 子供と大人が関わる場所を増やし、子供の現状を知る（理解する）（9）
 2. 多様化する子供の問題を大人が知る
意見を尊重できるようにする（9）
 3. 不登校の理由が積極的なものなのか、消極的なものなのかを知り、個別対応する（4）
- 残したい意見
・問題は皆で考える！！（2）

B グループのまとめ意見

1. 事実を知る
双方の話を聞く → 精査（8）
 2. 第3者にたよってもよい。
たよる場所の提供（3）
 3. 問題を知るためのコミュニケーション
聞く、話す、心理学を学ぶ（2）
- 残したい意見
・受けとめる度量（4）

C グループのまとめ意見

1. 人とかかわり方を学ぶ（発達段階に応じた）
専門機関に相談する（7）
2. 家庭の状況
知人には知られたくない人の為に、第三者に相談のできる場所を設ける（3）
3. 子供が何を悩んでいるかを知る為に、コミュニケーションをとれる場所を作る。提供する。（2）

D グループのまとめ意見

1. 雑談を通じて、信頼関係を構築し、子どもに安心感を与える（16）
 2. 地域で見守り、問題を発見できる環境づくり（3）
 3. 大人が子どもの抱える問題やなやみを知り、理解し、共感する。（1）
- 残したい意見
・とく名でインターネット上に居場所を作る（3）

E グループのまとめ意見

1. 貧困（8）
・複数の視点から親子をみる。
・助けの求め方を提供して、大人のヘルプを受けとる。2. 特別支援（8）
・大人が偏見なく理解する。
・支援員を増やす。

3. 学校（8）

- ・教員以外のスタッフの増員

残したい意見

- ・大人が今の子どものあたりまえを知る。（8）

Fグループのまとめ意見

1. 学校で相談できる場所、組織を教える（5）
2. コミュニケーションをとる時間をつくる。（3）
3. 相談できる環境を充実させる。（3）

残したい意見

- ・コミュニケーションは、まず大人同士の悩みを解決するところから始める。（1 2）

Aグループで出た意見（付箋）

住宅、食事 他 ” 共同保育 ” みんなの孫をみんなの老人で…。

老人対子供 サッカー、バスケ、ソフトボール
気軽にやれる仲 悩み何でもいえる

客観的な意見を言えるよう（身近な大人以外への相談）

公共ふろ場でコミュニケーション 老人 子ども
地域の人との交流の場を広げる

今の子どもたちを知る

子供の意見をしっかり聞いてくれる人がいると安心できる

老人 ←→ 小中高 元気にあいさつ慣行する

子どもとの関わりを増やすことで問題が何か知る

親と子の語り場が少ないので増えると良い

大人と子供の学びのペースが同じ目線になるような機会があると良い

今の教育、時代について学ぶ（自分の時代と変わっている可能性、柔軟な考え方）

色々問題はみんなの英知で！！

インターネットリテラシー 教育方法について考える

多様化する子どもの問題を大人が知る → 尊重できるようにする

居場所がない子ども→家とそれ以外のバランスを考えて支援 施設の充実 安全な場所という共通意識

目指せ多治見北高と言わず、名古屋市内私立高へ幅広い指導をする

社会性を学ぶ場 = 学校という認識

不登校の理由を解消できるよう個別に対応を（発達段階）

コロナ禍で距離の取り方が管理された時季があったので、その対応の理解や緩和を親が子に教えられるか

Bグループで出た意見（付箋）

知る

情報 どんな問題がある

事実を知る 学ぶ

情報過多

子供の問題 親が実態を知り受け止める

双方の話を聞く 知る

色んなパターンの見るきかいがいる

問題が多くせいさできない （一つ一つ具体的な対応しにくい）

どんな問題があるか学ぶ

学び

コミュニケーションの手法を学んでもらう

心理学を学ぶ

何も学ばない 思いの通り

コミュニケーションでオブラートにつつまない（本音も大事）

みきわめる方法

聞く方と話し方を学ぶ

第3者

親も子供も問題がある

親と子のスタンスアンマッチ 第三者が入ってヒアリング

家族でとじない

第3者のかんよ 存在

みちくさ知ってもらふ 学校に出ちょうして参加してもらふ

学ぶではなく人に頼る

兄弟間の仲 良好だと子供同士で解決することも

プライベートな悩み相談できる相手見つけることが大事

学校への情報提供

第三者の存在

頼れる場を知る

第三者の意見を聞ける場が必要？（視野を広げれば大したことないと分かる）

うけとめるどりょう度量

Cグループで出た意見（付箋）

子どもをもつ親さんがどのような悩みをかかえているかを知る。

友だちをつくれる環境
コミュニケーションとれていない
SNS 等で知らない人に相談する 善悪判断は誰れがするのか？
SNS の使い方 大人がちゃんと学ぶ
SNS のトラブル 相談できる人 信用の有無
SNS で知らない人にも相談できる
ただ話を聞いてくれるだけの存在
子供がをなやんでいるか知る
心の声をきけるまで待つてあげる場所
人とのかかわり 一大人が教える

発達段階に応じた子供の悩みを聞く
人との関わりの楽しさを知る
いろいろな考え方の人を知る
自分と異なるなる人苦手な人と関わらないではなく どう関わっていくかを教える
分からないことがおおいので専門家から一緒に学ぶ
どの機関に相談すればよいか分からない。明白にしてほしい。

母親の負担大
障がいのことを理解する
何かあったときに家以外で逃げこめる場所
外からは中の状況が見えない
人に知られたくないけど、いば所はほしい

建物のバリアフリー
食堂の衛生面の問題
子供食堂 普通の子が行ったりするのはどうして
る？
「問題」がざっくりしすぎ
コロナで係り方がかわってきた

Dグループで出た意見（付箋）
大人が子ども、現状、課題学ぶ
大人都合主義
大人が子どもを知らなすぎる
人口 子ども く 大人
危機管理を学ぶ体験ない
公園が無い
親のプライド → 隠す
人に話せない 相談できない
独りで苦しんでいる
親も助けてほしいと言えない
先生に言いづらい

ヤングケアラー 誰が困っているかわからない

地域
助けが必要なひと 見えない
地域の見守り隊
先入観 普通じゃない → あわれみ
カミングアウト → 特別 → 排他的？
シェアハウス 集合地域 多様な家族形態の集合
核家族化 近所のつながり希薄化
SOS だせる選択肢たくさん欲しい
町内に関わらないと地域はみえない
とく明で相談できる

居場所（逃げ場）→無い
ネット上 → 居場所つくる
不登校いじめ
表面化した時 → もしトラブルが起きた時？
小 1 の不登校 → 昔からあった？ 表面化した
だけ？

信頼関係
雑談 コミュニケーション
我慢しすぎない 相手を必要とする
×助けるよ！◎最近どう？ 心のセキュリティ下
げる
相手に言っているいい人だ SOS だす
親との雑談コミュニケーション
親と子 信頼関係
話を聞いてくれる安心感 ⇒ 心理的安全性
AI で相談する（ぐちを言う）

Eグループで出た意見（付箋）
貧困
生理用品 スポブラ必要
メガネ（学力低下）

親を救う
ネグレクト
☆助けの求め方
相談窓口を増やす
子どもを見る日を増やす コミュニティー

教員サポーター
学習支援員を増やす
先生が相談できる場

発達障害

特別支援

親の世代の不理解

今の子どものスタンダード あたりまえを知る

不登校

いじめ

仲直りの仕方

小さいまちがいをつみかさねる

Fグループで出た意見（付箋）

いじめ 自力でなんとかした 話を聞いて欲しかった

学校で相談できる場所や組織について教える

相談できる団体企業などを学校で教える

子供食堂がある事を学校から発信する

困ったことを親や学校以外にも無料で気軽に相談できる環境を知る

地域の大人が地域の子どもの普段から見れる環境をつくる

学業でサポートできる場所があるといい

子ども食堂という特定の場所ではなく、学校などの大きな場所で全員に向けてのサポートをする
悩み事をとく名で紙になどかいて投できるポストをつくる

児童館や公民館で大人どうしの交流をして、まずは大人どうしで悩みを話し合う場所をつくる
大人同士のコミュニケーションが無いと子供の変化に気づきにくい

子供と親、近所のコミュニケーションが必要

子供と親の話し合う時間が必要

討議テーマ4.

子どもの夢を応援する方法は何がありますか？私たちは、子どもと一緒に何を考えたらよいですか？

Aグループのまとめ意見

1. 大人が率先して夢を語る（11）
2. こどもが夢を語れる環境作りをする（4）
3. 子供の意見を理解して個性を尊重する（4）

残したい意見

- ・人脈作り（4）
- ・夢は必ずかなう!!（4）
- ・夢が変わっても受け入れる（4）

Bグループのまとめ意見

1. なりたい職業をしている人の話を聞く アンケートなどを使って「職業マッチング」（7）
2. クラウドファンディング体験 子どもが夢を実現させるためプレゼンを行う（5）
3. 乗り越える経験→見守る→フォロー体制を整える（5）

残したい意見

- ・何もしない（1）

Cグループのまとめ意見

1. 子どもが安心して活動できる金銭的支援（13）
2. 自信をもたせてあげられる活動の機会を増やす（5）
3. 子どもの気持ちを優先する（2）

残したい意見

- ・第三者の目で子どもの得意をみつける（3）

Dグループのまとめ意見

1. 子供のやりたい事を否定しない（好きな事をする興味・関心をうばわない）（4）
2. 考える力を養うトレーニング（家庭・学校）（4）
3. 子供が懂れる多治見にする（日本1を作る）（4）

残したい意見

- ・挑戦と失敗の経験値を上げて学びにつなげる（人生の所有感）（6）
- ・日本一早く空飛ぶ車を交通手段に！（6）

Eグループのまとめ意見

1. 色々な人と関わり、色々な経験ができる機会をつくる。（例：高齢者との交流）（10）
2. 子どもを肯定し、一緒に楽しむ。（8）
3. 子どもを信頼して見守る。
子どもの心に寄り添って一緒に考える（6）

残したい意見

- ・子どもの夢を理解する努力をする（3）

Fグループのまとめ意見

1. 色々な経験をさせてあげる。親も一緒に共感する。（7）
2. 子どもと話す時間を作る。成功、失敗談を話す。（5）
3. 子どもを否定しないで応援する。（4）

残したい意見

- ・お金や社会の厳しさなど現実を教える。(8)
- ・親として貯金をしてあげる。(8)

Aグループで出た意見(付箋)

子供の好きなものをきっかけにして夢を考える、
教えてもらう
子どもが自分のことを話せる関係づくり環境
子供の夢を知り 一緒に応援できる環境を提供できると良い
子供が”夢”を話したら、親は大きなアクションで「君は出来る!」と応援しよう!!

子供に親の夢を語り「大きくなったら、親孝行で月に10万ぐらいをくれ!」と頼む。
子供に両親は貧しいと理解させ大金持ちになって親孝行するよう教育する
ゲームを通じて親子のコミュニケーションを取る
子供の夢は、母親が語らず父親が語る!! 中国の主席になるぞ!

家族と他の大人で別の対応ができるように
自分のことを知ってくれている周りの人に相談する
子供が色々言う前に大人が大きな夢を語る!!
例・月の半分支配、星の王子様になる

子どものことをよく知り、その子に合った応援方法を考える
子供の個性をそんちょうする
追い込まない皆と一緒にじゃないとダメ等の意見をもたない
一緒に現実的かどうかにもかんがえることも必要
(手ばなしで協力するではなく)
親の理解

アップルのスティーブジョブズ おろかものでびんぼうであれ夢は必ずかなう!
人脈づくり 子どもが求めたときにつないであげる
夢が変わっても受け入れる

Bグループで出た意見(付箋)

物理
昔 自分がやっていたことの紹介
疑似体験
アンケートで職業マッチング

キッザニア

地元企業をターゲット クラウドファンディング
Projact
お金をかせぐ
子供の頃のけいけん→今どうなってるかは興味あるかも
地いきの子供のしえん→多治見市のローカルクラウドファンディングやる?
なりたい職業を実現している人の話を聞く
学力をつける場
やりたいという声を発する場を開く場
夢を応援 +けいざいの支援は必須
少し上の先輩の話をきく場の提供
海外留学しえん
他県、学校との交換留学
留学を応援する制度

旗を振る。
有りません子供だけ
ダメだった時のフォロー体制
敢て失敗させる→たよる・質問する→一緒に、方法を考える

精神
個性を伸ばす場
あえて失敗を経験させる→人にたよる力を付ける
「決断」させる
一緒にやる、考えるのではなく
夢が折れた時のケア+困難に立ちむかう力 事前に教える
壁を乗り越える経験
子どもの心を動かす場をたくさん作る

乗り越える経験→見守る→フォロー

Cグループで出た意見(付箋)

物理的サポート
夢一具体的に決まったら、SNS・図書館等で、その夢について一緒に調べてあげる。(親できれば)
子どもがしたいこと、夢には何が必要かを一緒に考えて、それを提供できる多治見市にする。
平等な支援 地域格差をなくす
支援金の充実
自信を持たせてあげられる活動(達成感を感じるように)
競技人口の多いスポーツなどは、それぞれの学校

を集めてやる。

支援イベントをしていても地域の人知らなきゃ意味ナシ。もっとやっていることを知ってもらう。指導者も仕事として給料をもらって、ボランティアじゃない、ふうにやってもらう。

何か目標を持てる環境を作る 将来の夢、近い未来の夢なんでも OK

発表・参加する場 機会を設ける コンテスト・コンクールなど

みんなで盛り上げる 情報誌などで頑張っている子どもを応援

心理的サポート

その子自身の特性をきちんと見極めてあげる

何ができるか考えてあげる

その子が何が得意かを他者の目線で、みてあげる。

第三者の

潜在能力を利用した 9 マス運動を行ってみる、勧めてみる、

目標達成の音楽を聞かせる（親のほう）

子供を信じること

夢ー子供の考えを否定しない

否定しない→ポジティブに考えてあげる

楽しければ何でも良い 楽しいと思える時間をたくさん作る

「夢」ー大人が勇気づける言葉を使う

頑張りを認める場

Dグループで出た意見（付箋）

子供のやりたい事を否定しない（好きな事をする興味・関心をうばわない）

親のひと言は大事

自己決定権 自分で決めて⇒自分で考える

何もしない自分でやらせる

子供がやりたいと言った事を否定しない

好きな事をしなさい あなたの人生

子どもがやりたいことをやらせ、努力できる環境づくり

子の可能性をつぶさない芽を摘まない

忙しすぎる子どもたち→考える余地

子どもの興味・関心うばわない

多様な選択 場・きっかけづくり

こうゆう生き方もある！

考える力を養うトレーニング（家庭・学校）

・挑戦と失敗の経験値を上げて学びにつなげる

（人生の所有感）

考える力をつける教育

考える力トレーニング

自分で考え決める力をつける教育

勉強の仕方 必ず答えある

失敗できる環境

失敗→学び →自信〈たくましさ〉

自分で考え決める力をつける教育

人生にルールはない 自分でルールをつくるのだ

「やりたいこと」を考えられない

決断経験の少なさ

自分の人生は自分のもの「人生の所有感」

子供が憧れる多治見にする（日本1を作る）

日本一早く空飛ぶ車を交通手段になるとよい

ワイナリー経営 in フランス

陶器で再び稼げるように!!

No.1 の*** 自慢できる誇れる!!

やりたい事が少ない！→やりたい事のきっかけとして多治見

子どものやりたいことのきっかけづくりをするための町づくり

稼げるようになると人は来る！子供の夢になる

古き良き昔の伝統再発見

伝統を学ぶ学校・施設

プロモーション、マーケティングやり方がへた？

Eグループで出た意見（付箋）

一緒に考える

自分事としてとらえる

好きに触れる方法を教える

見守る

親が口を出しすぎない

寄り添う

子どもの夢に共感する

何でもない経験

経験を共有する

何にでも触れる体験

色々な経験

色々な人と関わる経験

子どもと高齢者の交流

探求心・好奇心がわく体験（五感を育む）

子どもの好きを一緒に楽しむ

ユーモア ノリ

自己肯定感を育てる

自分らしさを育てる
夢を持った理由をきく

Fグループで出た意見（付箋）

親が子供の夢を否定しない
小さい頃は夢を否定しずどんどん応援する
夢を1つだけでなく多く持たせてあげる

職業体験をさせてあげる
色々な所に連れて行って色々な経験をさせてあげる
子どもがやりたいこと思ったことを経験させてあげる
たくさん遊ばせてあげる
習い事を強制するのではなく、子どもがやりたいこと
と思ったことを挑戦させてあげる
体験させて楽しませる
子どもの好きなことを親も一緒にやり共有・共感
する。

子どもと話す

大人が子どもを見てあげる。ほったらかしにしない。

大人も時間を作る

夢を叶えるために必要な学業を教える。

学業を教える→大人も分からなければ一緒に調べる

将来の夢に向かって何をするのか、何をしたらよいのか話し合う。

メリット、デメリットを教える

自分で調べさせて、自分なりの答えを見つけさせる

親が働いてる所を見せる

自分の、成功、失敗談を話す

親として貯金をして叶えられるようにサポートする（高校、大学）

お金や学力など、現実的な話をする

夢と同時に社会の厳しさを教える。年齢により、
分かる年齢になったら

子供の健康、食事をしっかりする

資料 2. 参加者アンケート

参加者全員にアンケートへの回答をお願いし、以下のような結果を得た。

設問 1. 参加動機についてお聞かせください（複数回答可）

テーマに関心があったから	10	(35.7%)
新しい市民参加型だから	5	(17.9%)
無作為抽出で選ばれたから	12	(42.9%)
その他の理由	1	(3.6%)

自由記述

- ・住んでいる街の未来について建設的な対話が望める機会だったから。また運営に関わる皆様の雰囲気を見てみたかった

設問 2. この討議会は、市民の声を行政に伝える手法として適していると思いますか？

適している	20	(83.3%)
分からない	4	(16.7%)
適していない	0	(0.0%)
その他・無回答	0	(0.0%)

設問 3. これまでに地区懇談会など、市が主催する討論の集まりに参加したことがありますか？

ある	2	(8.3%)
ない	21	(87.5%)
無回答	1	(4.2%)

設問 4. 市民討議会に限らず多治見市の市民参加の企画に今後も参加したいと思いますか？

参加したい	4	(16.7%)
都合が合えば参加したい	20	(83.3%)
参加したくない	0	(0.0%)

設問 5. より具体的な感想（意識の変化）をお聞かせください（複数回答可）

参画意識がより持てた	12	(36.4%)
積極的に行動すべき	13	(39.4%)
行政に関心が持てた	7	(21.2%)
特に変化はない	1	(3.0%)

自由記述（主なもの）

- ・自分の意見を言うべきだと思った
- ・参加しないと市政、社会、地域に対して当事者意識を持てない。積極的な参加が必要。（誤解を恐れず言うと）税金を納める主婦としてどのような議論がなされているのか新しい学びになった

- ・今までは意見が反映されることはないと思っていたが、このような場で意見を聞いてもらえると思ったから
- ・今まであまり考えたことのないテーマをいろいろな方と話し合えて楽しかったです。行政のこと全く知らなかったので知ろうと思いました
- ・実行委員の方がボランティアにも関わらず多治見を良くしたいがために一生懸命ご尽力されていることに驚くとともにすばらしいと感じました（市役所の方が行っていると思っていましたので）
- ・たぶん多治見は変わらないから
- ・多くの行政機関で首長と職員と地域の代表者だけが無作為に選ばれて参加できるので多治見市政に関心が持てるようになった
- ・このような話し合いをする機会があまりなかったのですが、参加して市民の方々がどのように思っているか聞くことができ、市民の声が届くならいいと思いました
- ・イノベーションを広げよう

設問 6. 今回市民討議会の謝礼についてどのように感じますか？

あった方がよい	23 (95.8%)
ない方がよい	0 (0.0%)
その他	1 (4.2%)

設問 7. 今後、市民討議会の討議テーマにした方がよいと思うテーマや、日頃関心のあるまちづくりに関する事項がありましたらお聞かせください。

自由記載（主なもの）

- ・交通問題
- ・多様な価値を認め合う社会
- ・多治見市の中心部以外を盛り上げるにはどうしたらいいか
- ・災害時の避難等
- ・森林の問題
- ・老人介護、買い物支援
- ・学校の先生の仕事について
- ・バリアフリーについて
- ・犬・猫の殺処分について
- ・お金についての教育

設問 8. 討議会のスタッフとして参加してみたいと思いますか？

参加したい	5 (20.8%)
参加したくない	3 (12.5%)
分からない	15 (62.5%)
無回答	1 (4.2%)